

(様式 5 : 全対象事業共通)

令和 7 年度第 1 回エネルギー構造高度化・転換理解促進事業評価報告書

補助事業名	「道の駅からり」加工場の再エネ導入と余剰電力活用に向けたチームづくり事業												
補助事業者名	内子町												
補助事業の概要	内子町では、観光物産拠点「道の駅内子フレッシュパークからり」のエネルギー転換を通じてエネルギーコストを削減し、農産物出荷者にかかる負担の軽減、特産品開発や加工品製造の活発化、施設の安定運営および魅力向上による人的交流の増加などに資することを目的として、令和6年度に直売所への太陽光発電設備設置および周辺施設への再エネ導入調査等を進めてきた。 令和7年度においては、これまでに実施してきた一連の事業を着実に推進していくため、再エネ導入のポテンシャルが高く、からりと密接に関連するからり加工場屋根に自家消費型の太陽光発電および蓄電池を導入した。また、周辺施設への将来的な追加導入を見込み、エネルギーの需給関係を適切に把握するとともに、効率的な出荷体制の構築や農業DXの推進等を見据えた余剰電力の活用策について、協議の場を設け、具現化に向けたチームづくりを行った。												
総事業費	34,771,000円												
補助金充当額	34,659,862円												
事業終了時点で達成すべき成果目標【必須】 (提案書から転記)	・加工工場の屋根への太陽光発電の設置(58.6kW)による予想年間発電量53,121kWh。施工11月(翌12月から発電)、R7.12～R8.3予想発電量12,709kWh <table><tr><th>項 目</th><th>達成時期</th><th>達成目標</th></tr><tr><td>①発電量</td><td>R7.12～ R8.3</td><td>12,709kWh</td></tr><tr><td>②電気料金削減効果 (単価29.5円/kWh)</td><td>〃</td><td>374,916円</td></tr><tr><td>③CO2排出量削減効果 (四国電力調整後排出係数0.454kg-CO2/kWh)</td><td>〃</td><td>5,770kg-CO2</td></tr></table>	項 目	達成時期	達成目標	①発電量	R7.12～ R8.3	12,709kWh	②電気料金削減効果 (単価29.5円/kWh)	〃	374,916円	③CO2排出量削減効果 (四国電力調整後排出係数0.454kg-CO2/kWh)	〃	5,770kg-CO2
項 目	達成時期	達成目標											
①発電量	R7.12～ R8.3	12,709kWh											
②電気料金削減効果 (単価29.5円/kWh)	〃	374,916円											
③CO2排出量削減効果 (四国電力調整後排出係数0.454kg-CO2/kWh)	〃	5,770kg-CO2											

	<table><tr><td>④協議の場・チームづくりのための会議における余剰電力活用策の検討、アイデアの具現化に向けた調査</td><td>~R8.3</td><td>活用策の取りまとめとチーム創出、アイデアの具現化に向けた調査報告書の作成</td></tr></table>	④協議の場・チームづくりのための会議における余剰電力活用策の検討、アイデアの具現化に向けた調査	~R8.3	活用策の取りまとめとチーム創出、アイデアの具現化に向けた調査報告書の作成	
④協議の場・チームづくりのための会議における余剰電力活用策の検討、アイデアの具現化に向けた調査	~R8.3	活用策の取りまとめとチーム創出、アイデアの具現化に向けた調査報告書の作成			
事業終了時点で達成すべき成果目標の達成状況【必須】	以下の①～③について、達成時期を R7.12～R8.3 の 4 か月分としていたが、工事等の遅れにより、3/19～3/31 の 13 日間で得られたデータとしている。なお、<>内の数値は、導入から現在までの実績値を目標設定期間に換算した数値を参考として記載している。 ①発電量 発電量は 1,311kWh。<14,704kWh> ②電気料金削減効果（単価 29.5 円/kWh） 電気料金削減効果は 38,675 円。<433,768 円> ③CO2 排出量削減効果（四国電力調整後排出係数 0.454kg-CO2/kWh） CO2 排出量削減効果は 595 kg-CO2。<6,676 kg-CO2> ④協議の場・チームづくりのための会議における余剰電力活用策の検討、アイデアの具現化に向けた調査 EV 車両を活用した配送支援策やドローン物流など複数の案が示され、それぞれの課題整理ができた。また、出荷体制の効率化と再生可能エネルギーの活用を一体的に捉える視点が醸成されるとともに、余剰電力を活用した配送の電化や農林業におけるエネルギー転換策など、具現化に向けた検討が進展した。特に太陽光発電設備下部空間の活用については、町の特産品である原木椎茸の栽培を組み合わせる可能性に着目し、地域資源と再エネを組み合わせた持続可能な農林業モデルの方向性が明確となった。				
事業終了後、将来的に達成すべき成果目標【任意】 （提案書から転記）	<table><tr><td colspan="2">[エネルギーコスト削減]</td></tr><tr><td>項 目</td><td>目標年：2026 年度</td></tr></table>	[エネルギーコスト削減]		項 目	目標年：2026 年度
[エネルギーコスト削減]					
項 目	目標年：2026 年度				

	加工場屋根への太陽光発電 58.6kW	年間発電量	53, 121kWh
		電力料金削減量（単価 29.5 円/kWh）	1, 567, 070 円
		C02 排出量削減効果 （四国電力調整後排出係 数 0.454kg-C02/kWh）	24, 117kg-C02
	[エネルギーコスト削減による加工生産・特産品開発の 活性化]		
		基準年： 2023 年	目標年： 2030 年
	「じゃばら」加工生産量 （仕入量）	35. 0t	65. 0t
	特産事業部販売額（税 込）	36, 084 千円	目標 10%増
	[余剰電力の活用]		
	目標年：2030 年		
	加工場および周辺施設への再エネ追加導入による余 剰電力を活用した農業活性化策を、1 つ以上実行する。		
事業終了後、将来的に達成すべき成果目標の達成 状況【任意】			
補助事業の実施に伴い締 結された売買、貸借、請負 その他の契約 （※技術開発事業のみ：間 接補助を行った場合は、間 接補助先を記載）	契約（間接補助） の目的	①令和 7 年度道の駅からり加工場太陽 光発電設備および蓄電池設備設置工事 ②「道の駅からり」加工場の再エネ導 入と余剰電力活用に向けたチームづく り事業	
	契約の方法	①指名競争入札 ②随意契約（公募型プロポーザル方式）	
	契 約 の 相 手 方 （間接補助先）	①有限会社田丸電気水道設備 ②株式会社武田林業	
	契約金額（間接 補助金額）	① 2 3 , 1 0 0 , 0 0 0 円 ② 1 1 , 6 7 1 , 0 0 0 円	

来年度以降の事業見通し	下部空間活用型の太陽光発電設備の事業構想について、令和 9 年度以降の実装を見据え詳細設計を進める。 また、生産者等との協議や合意形成を図りながら、産官学連携による推進体制を構築し、事業化に向けた準備を進める。
-------------	--

(備考)

- 1 事業完了した日から 3 ヶ月以内の提出をお願いします。
- 2 事業終了時点で達成すべき成果目標の欄、事業終了後、後年度で達成すべき成果目標には、それぞれ、補助金応募申請書提出時に設定した、「①事業終了時点で達成すべき成果目標」、「②事業終了後、後年度で達成すべき成果目標」の記載を転記すること。
- 3 事業終了時点で達成すべき成果目標の達成状況、事業終了後、後年度で達成すべき成果目標の達成状況の記載については、それぞれに対応する形で、成果目標の達成状況及び達成状況についての評価を記載すること。
- 4 契約の方法の欄には、一般競争入札、指名競争入札、随意契約の別を記載すること。間接補助を行った場合は、記載不要。
- 5 来年度以降の事業見通しの欄は、本事業に来年度以降も補助金を充当しようとする場合のみ記載。